

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ⑥その他

##### ●北海道医療大学心理科学研究科臨床心理学専攻

##### 「科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

コースワークの整備とカリキュラムの充実、実習教育の充実を図る作業の結果として、大学院生に対する教育の質は明らかに向上したと言えるが、研究科を構成する教員のうち、特に臨床指導に携わる教員の負担が大きなものとなった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

大学院教育の実質化に向けた専攻内の問題意識の向上と協働体制の準備をあらかじめ十分行っておくことが望ましかったと考える。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

専攻を構成する全教員によるFD研修、および月に2回定例で開催される学科会議において問題点を共有するとともに、問題の改善に向けて学科の構成員全員で議論を行い、改善策を模索し、各教員の責任分担と作業を再点検することによって負担の偏りを無くし、協働作業として教育に取り組むことができるようにした。